

JDS Network News

発行元：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）



表紙：ケニアの風景

Topics

活躍するJDS留学生（ケニア）
～第69回女性の地位委員会（CSW69）に参加して～

- ◆ 活躍する帰国留学生（東ティモール）
- ◆ JDS二世の紹介（モンゴル）
- ◆ ほっとひと息：ケニア

活躍するJDS留学生(ケニア) ～第69回女性の地位委員会 (CSW69)に参加して～

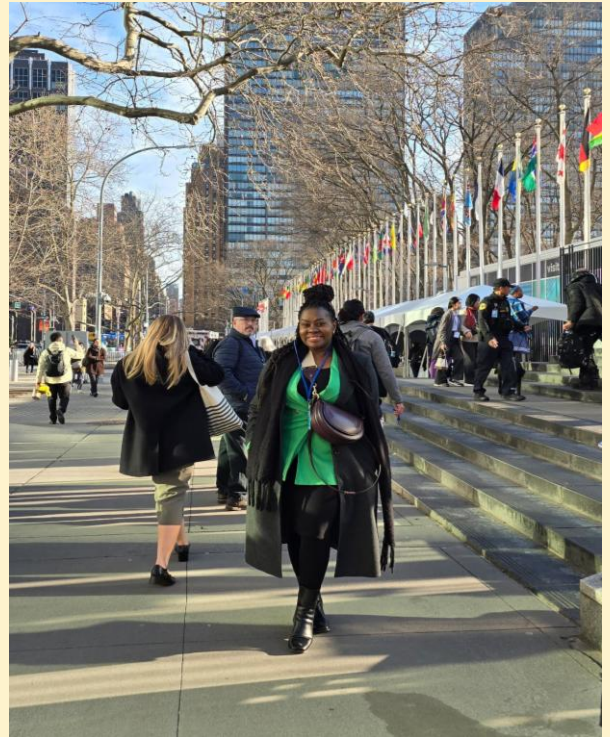


Ms. Osiemo Bathsheba Nyaboke (オシエモ・バスシェバ・ニャボケ氏)

政策研究大学院大学(GRIPS)政策研究科、2025年修了、内務・政務調整省国家行政局州政府補佐官

JDS留学中にGRIPSより資金援助を得て、ニューヨークの国連本部で開催された第69回女性の地位委員会(CSW69)に参加したオシエモ・バスシェバ・ニャボケ氏に感想を伺いました。

2025年3月10日～21日まで、私はニューヨークの国連本部で開催されたCSW69に参加する栄誉を得ました。CSWは1946年に設立され、ジェンダー平等と女性のエンパワメントに特化した国連の主要な政策の決定を行う委員会です。今年のセッションでは、ジェンダー平等の実現を促進すること、そして1995年の「北京宣言及び行動綱領」の実施状況のレビューが主なテーマでした。



ニューヨークの国連本部前にて



ニューヨークの国連本部会議場にて

CSW69へ参加することは私自身の目標の一つだったので、目標を達成する機会となりました。私は今年9月にGRIPSの修士課程を修了しましたが、修士課程では、「ケニアにおける10代の妊娠が女子学生の学業成績に与える影響」についての研究をしました。CSW69への参加を通じて、自身の研究をジェンダー平等に関する国際的な政策対話と結びつけることができました。また、10代の妊娠やジェンダー不平等といった世界的な課題に取り組むうえで、研究・協力・共通のコミットメントの重要性を改めて認識する機会となりました。

自身の経験から、日本政府による人材育成への投資が、個人の人生を大きく変えるだけでなく、日本とケニアの関係強化、そして世界の持続可能な未来の構築の一助となっていることを証明していると実感しています。

**Mr. Noronha Lopes Edson Robert(ノローニャ・ロペス・エドソン・ロバート氏)**

立命館アジア太平洋大学大学院アジア太平洋研究科、2024年修了、観光環境省 National Director

JDS東ティモールの4期生として、2024年に立命館アジア太平洋大学大学院を修了したノローニャ・ロペス・エドソン・ロバート氏は、2025年の大阪・関西万博にて、東ティモールパビリオンのパビリオン・ディレクターに抜擢され、パビリオンの企画・運営、東ティモールの文化発信と関係機関との調整といった重要な役割を果たしました。2015年のミラノ万博、2020年のドバイ万博でも運営経験があったノローニャ氏は、今回の大阪・関西万博ではそれらの経験を活かし、パビリオンの企画・運営や国内外のVIPへの対応、ナショナル・デーにおけるラモス・ホルタ大統領訪日時の式典運営などを担当しました。

ノローニャ氏は、JDS留学時には同国の観光開発の可能性について研究しました。留学時の研究テーマには「東ティモールの文化観光の可能性:タイス 文化と無形文化遺産の目的地となる観光村としてのコヴァ・リマ の開発」を選びました。JDS留学での研究成果が評価され、帰国後は同省のマーケティング・国際関係を担当する部署でNational Director (国家局長)に昇進しました。今後、更なるノローニャ氏の活用が期待されています。



パビリオンの展示会場にて

**Mr. AMARSANAA Zorigt(アマルサナー・ゾリグト氏)**

名古屋大学大学院環境学研究科、2025年来日 モンゴル自然環境・気候変動省シニア事務官

今年2025年8月に来日したモンゴルのJDS留学生アマルサナー・ゾリグト氏は、2011年にJDS留学生として筑波大学へ留学した母親のヤドマー・ツェヴェーンハンド氏(当時:モンゴル自然環境観光省勤務)に同行して日本に滞在した経験を持っています。当時高校生だった同氏は、1年近く日本に滞在し、日本語を勉強したり日本人との交流を深めたりすることで日本への愛着を深め、いつか自分自身も日本へ留学することを希望していました。

モンゴルへ帰国後に大学を経て公務員となり、自然環境・気候変動省に7年間勤務し、JDS留学生として名古屋大学大学院環境学研究科へ留学するために今年来日しました。今回ゾリグト氏から、日本のJDS関係者へ向けたメッセージを頂きました。「これまで私を支えてくださった全ての方々々に心から感謝しています。皆さまのおかげで、私は再び日本にいます。修士課程修了後は、モンゴルの発展に貢献したいと思います。」

家族旅行の写真(右から1番目がゾリグト氏、3番目がツェヴェーンハンド氏)
(2012年秋に撮影)



ケニアはアフリカ東部に位置し、雄大な自然と多彩な文化が息づく国です。大草原やサバンナ、インド洋に面した海岸線など、変化に富んだ自然環境が人々の暮らしを形づくっています。農業が主要な産業で、コーヒーや紅茶、花の生産でも広く知られています。40を超える民族が共に暮らすこの国では、多様な言語や伝統が溶け合い、音楽や踊り、食文化にもその豊かさが表れています。今回は、そんなケニアの人々の食文化に注目します。



【Chapati(チャパティ)】

主食やおやつとしてケニアで親しまれている丸く平べったいパンです。作り方はとてもシンプルで、生地はチャパティ粉(小麦粉の一種)と水のみで作られています。おやつにそのまま食べたり、カチュンバリ(写真左:トマト・玉ねぎ・青唐辛子のケニアの代表的なサラダ)をつけて食べたり、主食としてお肉やスープなどのおかずと一緒に食べたりします。チャパティでソーセージや野菜、ソースを包んだものは「スモーチャ」と呼ばれ、ストリートフードとしても人気です。

【Samosa(サモサ)】

南アジアから伝わった、ケニアをはじめ東アフリカでよく食べられているおやつです。ひき肉や野菜を包んであげた三角形の揚げ餃子のような料理で、食べるとサクサクとした食感と香ばしさが楽しめます。ケニアの街を歩くと、ストリートフードの屋台が至る所に立ち並んでおり、これらの屋台でも手軽に購入できるケニア定番のスナックです。



JDS 3つの特徴

1 **行政官限定事業**
※一部例外がございます

2 **6,345名 23カ国の実績**
※事業終了国の人数も含む ※2024年度までの人数

3 **大臣・局長職を輩出**

対象国の社会・経済開発計画の立案・実施に関わる若手行政官が日本で修士号または博士号を取得しています

出身省庁…財務・経済、法務、行政、環境、インフラ、教育等
<JDS実施国 (JICE)> ※受入開始年順

ウズベキスタン、ラオス、カンボジア、ベトナム、モンゴル、
バングラデシュ、フィリピン、キルギス、タジキスタン、
スリランカ、東ティモール、パキスタン、ブータン、モルディブ、
ケニア、セネガル、ウクライナ

※中国は2012年、インドネシアは2006年に事業終了しました。

日本で専門知識を身に付け帰国した留学生は、
日本との政策対話に携わり二国間関係の強化に寄与する等、
様々な場面で活躍しています。

人材育成奨学計画 (JDS) は無償資金協力による
JICA留学生事業です。

編集後記

JDS Network News (JNN) をお読みいただき、ありがとうございます。

記事にもあるように、今年2025年8月に、ついにJDS二世が誕生しました。日本語がとても流暢なので理由を質問したところ、日本語はJDS留学生だったお母様と一緒に日本に滞在していた間に習得されたとのこと。「滞日中に日本が大好きになり、再び来日できてとても嬉しいです」とのコメントを頂きました。

2000年からJDS留学生の受入れが始まり25年以上たちましたが、日本に好意を抱いて帰国した留学生の家族が留学生数の倍以上存在していることを改めて知る機会になりました。

JDS事業に関するご質問がございましたら、お気軽にメールで弊センターまでお問合せください。また、本誌へのご意見・ご感想もお待ちしております。

【お問い合わせ先】
一般財団法人日本国際協力センター (JICE)
留学生事業第一部広報担当
E-MAIL: jds.pr@jice.org